

楽しく

学ぶ

見て

徳島県立博物館

Museum News

No. 78

博物館

はく

ぶつ

かん



こんにちは！
ヤマモンです。



詳しいことは
4ページを見てね。



ヒマラヤは
すごく高いなあ。

ニルギリ

The Himalayas

ヒマラヤの名前の語源は、サンスクリット語の「ヒマーラヤ」。

雪の住みかという意味です。この山脈には8,000mを超える山が14もあり、“世界の屋根”などともよばれます。ヒマラヤと言うと、私たちは雪に覆われた岩の山肌を想像しますが、そのすそ野は熱帯に始まって、中腹では意外にも私たちの暮らす徳島県の平野部と同じ温帯照葉樹林になっています。

中世の大量出土銭の謎

なぜ

—かくし銭？まじないの道具？—

高島 芳弘

平安時代の末から中世にかけて、国内では貨幣かへいのちゆうぞう铸造は行われなくなり、主に中国から輸入された銭が使われるようになりました。中世の城跡や港町を発掘調査すると、建物跡や墓穴、ゴミ穴などから古銭が発見されます。これらとは別に大量の古銭が、甕かめなどの容器にまとめて入れられ、埋められている場合があります（図1・2）。大量出土銭の枚数、種類、埋められた時期などについて考えてみましょう。

徳島県内では、表1のとおり8カ所で確認されています。海陽町大里かいようちょうおおさと（図3）が70,088枚と飛び抜けて多く、四国で1、2を争う数で全国でも10番目までに入ります。日本で一番多いのは北海道函館市の志海苔しのりの古銭で、374,436枚が残されています。

古銭の種類は主に唐、宋、明の時代の中国銭でほかに高麗こうらい・李氏朝鮮りしちょうせん、安南あんなん（ベトナム）、琉球りゅうきゅう（沖縄）の古銭などがあります（図4・6）。

銭は、だいたい100枚を一括ひとくくりとして紐ひもに通され『緡さし』として流通しており、この状態のまま埋められました（図5）。

埋められた古銭の中には、中国銭本銭ばかりでなく、中国や日本で私的につくられた銭もあります。鎌倉、京都、堺などで銭の鑄型が見つかっています。これらの銭は、当時、鑿銭びたせんと呼ばれ、現在でも「鑿一文まけない」などの慣用語の中に残されています。

古銭が埋められた時期は、いちばん新しい銭が初めて鑄造された年よりは古くはなりません（図6、表1）。容器である焼き物の製作年代からも推定されます。

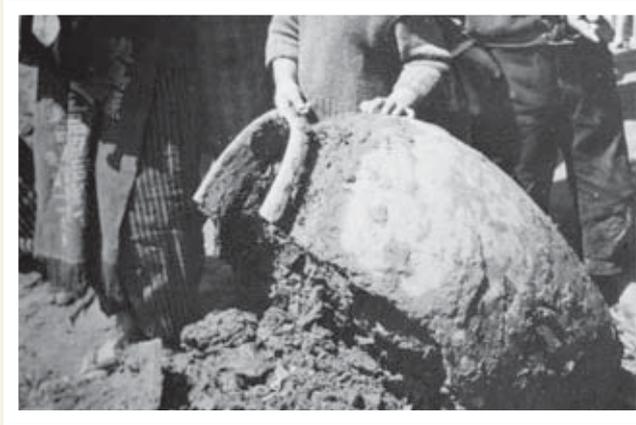


図1 長生古銭の発見の様子
（阿南市市民部文化振興課提供）



図2 根井古銭の備前壺

具体的に埋納年代の分かるのは、香川県さぬき市志度町の長福寺から出土したものです。備前焼の壺に9,000枚の古銭と木簡がいっしょに入れられており、木簡には「九貫文花巖坊賢秀御房」「文明十二年三月十九日敬白」と書かれていました。誰が何枚埋めたのかまで分かります。文明十二年は西暦では1480年です。

これらの出土銭が、交易の成果としての備蓄銭として埋められたのか、地鎮祭などのまじないを伴う埋納なのかは、はっきりとしないものが多いです。江戸時代以降、古銭をまとめて埋めるという風習が廃れたせいかもしれません。いろいろな地域で出土例は増えていますが、意義付けについては、解決しなければいけないことがまだまだ残っています。(考古担当)



図3 大里古銭出土地



図4 埋納数の多い古銭
(左から開元通宝、皇宋通宝、熙寧元宝、元豊通宝、永楽通宝：すべて小松島市根井出土)



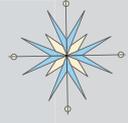
図5 寺山古銭の出土状態
(徳島県立埋蔵文化財総合センター提供)



図6 埋納数の多い古銭の初鑄年

出土地	枚数	最古銭	最新銭	容器	埋納時期
海陽町大里	70,088	貨泉(新)	至大通宝(元)	備前大甕	14世紀後半
阿南市長生	26,338	開元通宝(唐)	世高通宝(琉球)	備前大甕	15世紀後半
海陽町船津	約20,000	不明	不明	不明	
徳島市一宮	17,178	四銖半両(前漢)	至大通宝(元)	素焼き壺	14世紀後半
神山町神領	約15,000	不明	不明	不明	
徳島市寺山	3,699	五銖(後漢)	至大通宝(元)	木質容器	14世紀
小松島市根井	1,607	開元通宝(唐)	永楽通宝(明)	小型の備前壺	15世紀前半
美馬市重清城名	約1,000	開元通宝(唐)	宣德通宝(明)	素焼き壺	15世紀後半

表1 徳島県下の大量出土銭



The Himalayas



ユキヒョウ (国立科学博物館蔵)



ヒマラヤタール
(国立科学博物館蔵)



アネハヅル
(国立科学博物館蔵)



青いケシ (撮影:天野 誠氏)

ヒマラヤ山脈は世界の屋根とよばれ、さまざまな珍しい動植物が存在しています。一方、ヒマラヤのすそ野は熱帯に始まり、その中腹は意外にも私たちの暮らす徳島県の平野部と同じ照葉樹林になっています。
この企画展では、ヒマラヤの高山帯やその中腹の特徴ある自然や人々の暮らしを、動物、昆虫、植物、岩石などの標本や生活の道具、写真、映像などを用いて紹介します。



エベレスト山頂の石 (酒井 治孝氏蔵)



アンモナイト



背負い籠
(国立民族学博物館蔵)



ウラフチベニシジミ
(撮影:安永 智秀氏)



ダナダターラー・マンダラ
(国立民族学博物館蔵)

ぜひ、来てね。



ヤマモーチャン

- 主催 徳島県立博物館
 - 会期 平成22年4月29日(木)~6月6日(日)
休館日: 5月6、10、17、24、31日
 - 会場 博物館企画展示室
 - 観覧料 一般200円/高校・大学生100円/
小・中学生50円
- ※20名以上の団体は2割引 ※土・日・祝日は小中高生無料
※学校教育での利用は無料

すごろくばん 双六盤

双六といえば、絵などが刷られた紙の上に駒を並べ、ひとつの賽子を使って出目の数だけ進むというようなものを思い浮かべる人も多いかと思いますが、これはいわゆる絵双六で、江戸時代以来、現在にもつながるものです。

今回紹介するのは盤双六で、奈良時代に中国から日本に伝えられたとされるものです。図1の資料は、昨年鳴門市のあるお宅から寄贈いただいた双六盤一式です。双六盤の盤面は、縦線が手前と奥側にそれぞれ11本、盤の中央に横線2本があります。したがって、この横線の手前側と奥側にそれぞれ12マスがあることになります。双六盤のほか紙箱があり、図2のようなゲームに使用する黒白の駒（石）、賽子、竹筒が入っています。箱の裏書きには「天保十三」（1842年）などの墨書を確認でき、そのころに新調したものだということがわかります。

ちなみに、増川（1995年）によると、盤双六には柳、追廻し、本雙六、大和、下り端などの遊び方があるとされます。たとえば、本雙六の基本的なルールは、盤をはさんで2人で対面し、それぞれの敵陣地においた自分の駒を自分の陣地に向けて賽子の目にしたがって進め、先に全部の駒を進め終えた方が勝ちというものです。賽子を振るときには2つの賽子を竹筒の中に入れて振り、賽子の目の数だけ駒を動かすことができます。ゲームの最初は図3のように白黒それぞれ15個ずつの駒を盤上に配置し、相手の駒が2つ以上入っていないマスに駒を進めることができます。相手の駒が1つだけあるところに味方の駒が入ると「切る」ことができ、切られた駒は中央にある細長い空地に「上げられ」、次の賽子の目により出発点（黒だと図3の1番左上のマス）からスタートさせなければなりません。

（民俗担当：磯本 宏紀）

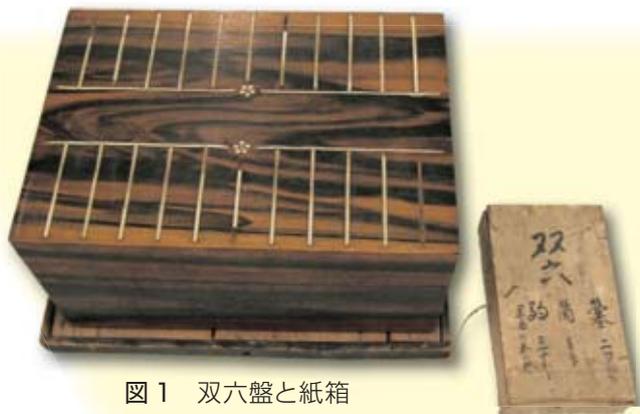


図1 双六盤と紙箱

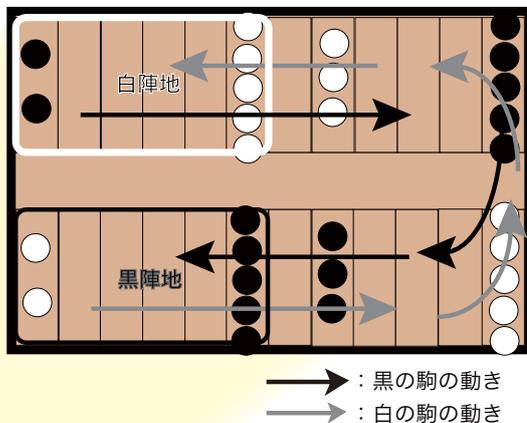


図3 本双六の駒の動き



図2 紙箱に入る駒、賽子、竹筒



参考文献
 工藤員功編 2008年 『絵引 民具の辞典』 河出書房新社
 増川 宏一 1995年 『ものと人間の文化史 79-1 すごろくI』 法政大学出版局



カンサイタンポポ



シロバナタンポポ



クシバタンポポ

みなさんは自分たちのまわりにどんなタンポポが咲いているかご存じでしょうか? 「タンポポ調査・西日本 2010」は身近な花であるタンポポの分布を調べることで、身の回りの自然環境に関心を持ち、その変化に目を向けていただくことを目的としています。誰でも気軽に参加でき、調査はとても簡単ですが、専門家が同定し、一部は最新の技術を用いた DNA 解析を行うなど学術的にも価値の高い調査となっています。2009 年は予備調査、2010 年に本調査を行います、予備調査がまとまりましたので報告します。

今回の調査で徳島県では、カンサイタンポポ、

シロバナタンポポ、クシバタンポポが見つかりました。また、外来種であるセイヨウタンポポとアカミタンポポ、それらと在来種との雑種が見つかりました。カンサイタンポポは広く分布し、セイヨウタンポポなどの外来種は都市部にも多いのですが、山間部にも道路沿いなどに分布していることがわかりました。『徳島県植物誌』に記録されたヤマザトタンポポは見つかりませんでした。

西日本では、カンサイタンポポは淡路島を中心として円状に分布していて、徳島、香川、岡山県より西側は非常に少なくなっています。また、四



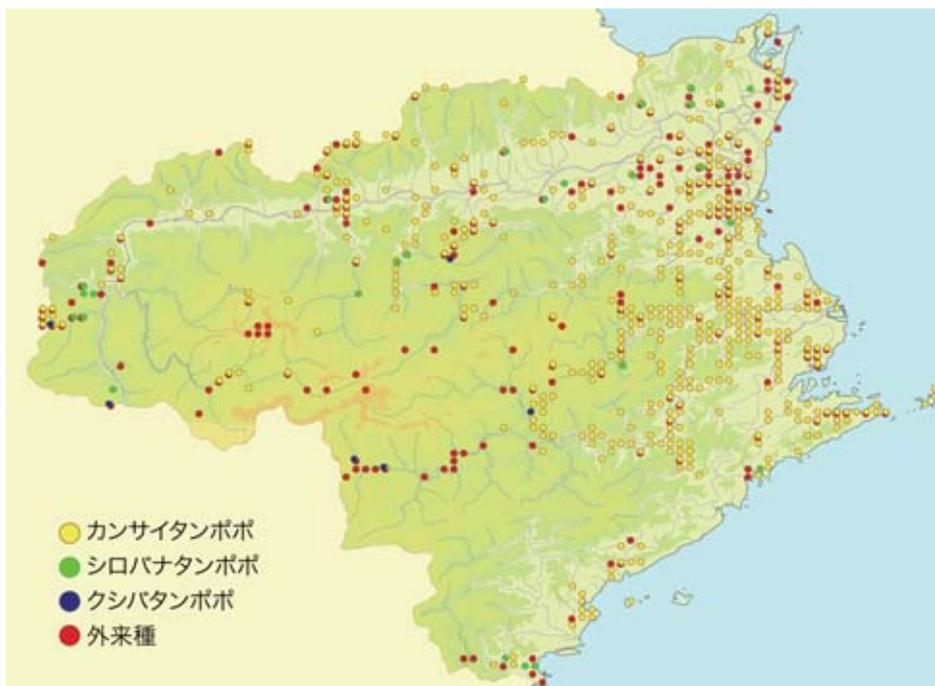
セイヨウタンポポ



アカミタンポポ



雑種



予備調査で得られた徳島県のタンポポの分布

国の西部では正体不明のタンポポが見つかりました。これらの結果や調査の参加のしかたにはホームページ (<http://www.gonhana.sakura.ne.jp/tanpopo/>) で見る事ができます。

2010 年 3 月から 5 月にかけて、本調査が行われます。タンポポの分布をさらに詳しく調べますのでみなさんご協力下さい。

(植物担当: 小川 誠)



コダイアマモは、海草の化石なのですか？

鳴門周辺の海岸を歩いていると、岩石の表面に、まるで海草が張り付いたような岩石を見つけることができます。これはコダイアマモと呼ばれる化石です。コダイアマモは、四国や淡路島、紀伊半島に分布する和泉層群と呼ばれる白亜紀後期（約8000万～7000万年前）の地層から特徴的に産出します（図1）。昔からアヤメ石や菖蒲石などといわれ、徳島県上板町などにある菖蒲谷の地名は、菖蒲石が採れたことに由来すると言われています。

コダイアマモの“コダイ”とは古代という意味で、また“アマモ”はジュゴンがエサにする海草のアマモのことです。つまり、古代のアマモという意味になります。コダイアマモを命名したのは、京都大学の郡場寛博士と香川県出身の三木茂博士です。両博士らは、コダイアマモが白亜紀の浅い穏やかな海に繁茂していた現生のアマモ類の先祖にあたる水生顕花植物だとし、4種のコダイアマモを命名・記載しました。

しかし、コダイアマモは、和泉層群の中でも砂岩と泥岩が周期的間隔で繰り返す地層の特に厚い砂岩に含まれます（図2・3）。実は、和泉層群のこの厚い砂岩は、海草が育つような浅い穏やかな海ではつくられていません。厚い砂岩は、数百年から数千年に一回起きる大地震などの影響によって、雪崩のように浅い海から比較的深い海へ運ばれてきた堆

積物なのです。以上のようなことやその他いくつかの証拠から、コダイアマモは海草のアマモ類の化石ではなく、生痕化石ではないかという意見ができました。生痕化石とは、昔の生物が生活した痕跡の化石のことで、たとえば、足跡、はい跡、巣穴、また排泄物などが化石になったものです。

まだコダイアマモが海草の化石なのか、あるいは、生痕化石なのかの最終的な決着はついていません。しかし、最近では、多くの古生物学の研究者が、コダイアマモは植物化石ではなく、生痕化石だと考えています。（地学担当：辻野 泰之）



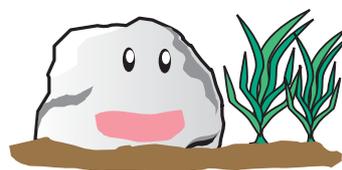
図2 鳴門市島田島に露出する和泉層群の砂岩と泥岩の互層



図3 厚い砂岩に含まれるコダイアマモ

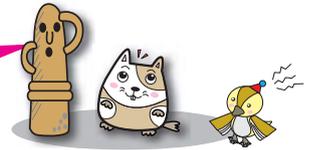


図1 徳島県立博物館常設展に展示されているコダイアマモ



私は植物化石
でしょうか？

あなたも参加してみませんか？



4月から6月までの博物館普及行事

シリーズ名	行事名	実施日	実施時間	申込	対象(定員)	備考
歴史散歩	縄文の谷ハイキング(東みよし町)	4月18日(日)	9:00~17:00	要	小学生から一般(30)	現地集合
	出羽島を歩こう	4月29日(木)	10:30~15:30	要	小学生から一般(25)	現地集合
	古墳見学①(徳島~海陽)	5月30日(日)	9:00~17:00	要	小学生から一般(45)	貸切バス
歴史文化講座	忌部山古墳群と横穴式石室	5月23日(日)	13:30~15:00	不要	小学生から一般(50)	海南文化館
	戦国時代の海部刀	6月27日(日)	13:30~15:00	不要	小学生から一般(50)	海南文化館
野外自然かんさつ	タンポポを探そう	4月25日(日)	13:00~16:00	要	小学生から一般(30)	現地集合
	穴喰浦と竹ヶ島の地質見学(海陽町穴喰)	5月9日(日)	12:00~16:00	要	小学生から一般(25)	現地集合
	磯の生きもの	5月16日(日)	13:00~15:00	要	小学生から一般(70)	現地集合
	白亜紀の地層見学(勝浦町)	6月6日(日)	13:00~16:30	要	小学生から一般(25)	現地集合
ミュージアムトーク	ヒマラヤの花と自然	5月23日(日)	13:30~15:00	不要	小学生から一般(50)	
	飯塚桃葉と田沼時代	6月13日(日)	13:30~14:30	不要	小学生から一般(50)	
企画展示関連行事	企画展「ヒマラヤー自然と人びとのくらしー」展示解説①	4月29日(木)	14:00~14:30	不要	小学生から一般	観覧料必要
	企画展「ヒマラヤー自然と人びとのくらしー」展示解説②	5月9日(日)	14:00~14:30	不要	小学生から一般	観覧料必要
部門展示関連行事	部門展示「絵はがきと景観」展示解説	5月9日(日)	15:00~15:30	不要	小学生から一般	観覧料必要
	部門展示「四国のツキノワグマ」展示解説①	6月13日(日)	14:00~14:30	不要	小学生から一般	観覧料必要
博物館フェスティバル	こどもの日フェスティバル	5月5日(水)	9:30~16:00	不要	小学生から一般	受付15:30まで

◎小学生が参加する場合は、保護者同伴です。

◎企画展の展示解説は企画展観覧料が、部門展示の展示解説は常設展観覧料がそれぞれ必要です(高校生以下は無料)。

博物館友の会に入会しませんか!



博物館友の会は、さまざまな活動を通じて自然や文化に親しむとともに、会員相互の交流をはかっています。2010年度も楽しい行事が予定されています。みなさんも参加してみませんか?

■年会費・個人会員 2,000円・家族会員 3,000円

■会員の特典

- ・年間を通して博物館の常設展、企画展の観覧料が無料になります。
 - ・友の会の出版物やミュージアムショップの品物を割引価格で買うことができます。
 - ・催し物案内、博物館ニュース、会報等が送付されます。
- くわしくは友の会事務局まで(電話 088-668-3636)

学校の先生方にお知らせ!!

学校で 授業で 博物館を活用してみませんか?

徳島県立博物館では、博物館のもつ資源(もの・情報・人)を学校教育の場で有効に活用していただきたいと考えています。

- 遠足で展示の見学ができます!
- 博物館で授業ができます!
- 学校への出前授業に行きます!
- 博物館資料の貸し出しをしています!

学習内容に関する質問など、何でも気軽におたずねください。動物、植物、地学、考古、歴史、民俗、美術工芸といった専門分野の学芸員がご相談に応じます。

すべて無料ですので、まずは博物館普及課までお電話下さい。



普及行事のお申し込みについて

- ◎1枚の往復はがきには、1行事だけにしてください。
- ◎行事日の1カ月前から10日前までに必着で右記までお申し込みください。
- ◎返信用はがきの住所・氏名も忘れずに記入しておいてください。
- ◎希望者が多数の場合は抽選とし、詳しいことは当選された方にお知らせします。
- ◎原則として、参加費は無料です。

往復はがき記入例

〈往復の表面〉	〈返信の裏面〉	〈返信の表面〉	〈返信の裏面〉
50 〒770-8070 往信 徳島市八万町 向香山 徳島県立博物館 普及課	何も書かないで ください	50 〒□□□□□□ 返信 あなたの 郵便番号 住所 氏名	1.参加希望の 行事名 2.参加希望者 全員名(学年) 3.住所 4.電話番号

希望の行事を選んでね。



※お問い合わせは、徳島県立博物館 普及課へ(電話 088-668-3636)